

令和6年度林業成長産業化構想技術者育成研修(中部ブロック)を実施

ブロック研修においては、ICT等の先端技術を活用し、効率・効果的な木材生産の基盤となる路網計画を含む、総合的な森づくりの構想を作成できる人材の育成を目的に、全国6ブロックで実施されました。

中部ブロックでは、10月29日から11月1日の4日間、岐阜県下呂市及び加茂郡七宗町（現地研修）において、富山・長野・岐阜・愛知・三重・滋賀県から県職員6名、民間事業者等職員5名、国有林職員4名、計15名が参加し研修を実施しました。本年度は、約1,400haの民有林と国有林の演習地の内、主に国有林1,000haについて、森づくり構想を念頭に、基幹林道の新規計画と森林整備計画（木材生産）について、近隣の林業事業者、木材加工・流通情報を踏まえた検討結果をグループ発表するカリキュラムにより3班に分かれ行いました。また、路網の検討にあたっては、FRD（路網設計支援ソフト）を使用して路網整備の促進を図るもので、QGIS（※地理情報システムの閲覧、編集、分析機能を有するオープンソースソフトウェア・GISソフト）や、航空レーザー計測等で得られた森林現況や地形データ等を基に林道などの路網を机上で設計し、現地の眺望や踏査、ドローンによる現地確認等で現況を把握し、修正を行う手順で取り組みました。この研修により、木材生産基盤整備のための高度技術者等を育成し、生産性の向上、施業の低コスト化、資源の循環利用促進等により、林業の成長産業化を担う人材を育成していきます。

【1日目】「開講式、講義、演習地の説明、森林資源把握・路網配置計画演習」

講義「地域特性に応じた森づくり構想」、演習地の説明を受けたあと、QGISデータ及び図面で演習対象地の森林現況及び地形の把握を行い、森林及び路網の整備計画や地域特性に応じた森づくりの構想等について、大局的に検討する視点を養うことを目標に、各班が演習に取り組みました。



森づくり構想（横井講師）



ブロック研修の目的を説明（林野庁 守屋係長）



会場は広々とした空間（下呂市民会館 大会議室）



PCデータで路網配置の検討

【2日目】「現地実習」

演習地（七宗国有林）へ移動し、「地域特性に応じた森づくりの構想」、「森づくり検討・森林現況の把握・路網配置の調査」について、昨日机上演習で検討した演習地（現地）の眺望、資源量や地形・地質、周囲の土地利用等について踏査し、OWL（森林3次元計測システム）やドローンを活用し現地で確認するなど、路網計画や森林整備計画を再構築しました。



森づくり構想の現地実習
(横井講師)



調査結果に基づく現地での概要説明
(計画課 松井計画調整官)



現地にて高齢級箇所の森づくりについて意見交換



現地にて間伐箇所の森づくりについて意見交換



図面等により現地を確認



森林技術・支援センター職員より、OWLデモ・説明、ドローン飛行による全景確認を実施

【3日目】「林業成長産業化構想演習」

机上演習と現地実習の結果を踏まえて、路網整備・森林整備（木材生産）の計画を含めた林業成長産業化に資する地域構想を作成。路網計画が市町村森林整備計画上のゾーニングや更新方法と整合が取れているかなど、計画的な路網整備を行うための視点を養いました。



本多進行役からプレゼン資料作成手順等の説明



現地踏査後路網計画を再検討



現地踏査を踏まえ森林整備計画の再検討



真剣な眼差しで予定路線等を再検討



現地踏査を踏まえ検討資料を整理



昼休みは森林技術・支援センター新庁舎でCLT等を見学

【4日目】【発表、ディスカッション、講評、閉校式】

各班演習の発表とディスカッションを通じて、構想の実現に向けた計画立案と地域の利害関係者との合意形成に必要なプレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上を図りました。



1 班発表



2 班発表



3 班発表



講評（米アドバイザーグループ会合委員）



講評（下呂市 大島理事）



閉校式（森林技術・支援センター 都竹所長）



集合写真

◎受講生の感想より

- ・狭い世界での仕事から、広い視点を学べた。
- ・一番の年長だったが、皆さんに学べた。
- ・講師、受講生との交流で、視野が広がった。
- ・様々な要素で考える必要性を頭ではわかっていたところが身に染みて学べた。
- ・班行動で腹を割って所属の垣根を越えて交流できた。QGISの活用の可能性を感じた。
- ・様々な考え方を知ることができた。山をどう見るかが大事と理解した。
- ・班の皆さんと有意義な交流ができた。林道担当経験が長い中、森林整備も学んでいきたい。
- ・QGISの可能性を感じた。プレゼンにも効果的だと思う。OWLなども取り入れていきたい。
- ・日頃の仕事相手は70代の方。未来の森に向けて、老若男女に届く森づくりをしたい。
- ・環境の違いに気付いた。実際に触って関心も出て大変参考となった。
- ・他県との交流は刺激的だった。
- ・森林計画を立てる際、森林官は一人で造ることが多いが、多くの意見等を聞くことが大切と感じた。
- ・様々な立場の方々と一緒に研修できたことで、視野を広げることができた。
- ・FRDをより深く学んでみたいと思った。林家等へ意向調査をしているが、その際の全体視点を学べた。
- ・プランナー的な仕事をしたことがなかったので、将来の森づくりを考える視点を学べた。